

## 「地域Ⅱ」中間発表会 ～地域の課題解決に取り組む本校生～

本校の「地域デザインコース」と「環境デザインコース」の生徒は、2, 3年時に「地域Ⅰ」と「地域Ⅱ」の学校設定科目を必ず履修します。この授業では、地域を知ると同時に地域の課題を知り、未来のより良い地域社会の実現を願い課題解決学習に取り組んでいます。

10月9日(金)の5,6時間目、物理教室にて3年生の中間発表会がありました。生徒たちは8班に分かれ、「国際交流(ウガンダについて)」と「立科町の観光」の2つの大きなテーマでプレゼンテーションを行いました。

国際交流では、ウガンダの食生活、農業、交通、教育、医療、治安、観光、食事、などについての発表。観光については、地元食材を調理した食品開発を中心に発表が行われました。生徒は真剣にプレゼンを行い、とても良い発表会になりました。

私は、おこがましくも「講評者」として参加。(1)説明の手法について (2)説明の方法について (3)テーマの設定と展開・発展について などのポイントで批評しました。この取り組みが、生徒自身(心身の成長・進路実現)のために、地域社会(人材育成・経済発展)のために、学校(教育力の強化・魅力化)のため、三つ巴で実を結ぶことを祈っています。



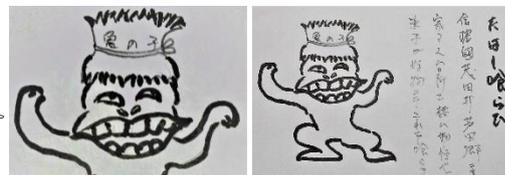
## 卓球部がスポニチ登場 ～蓼科から吹け、卓球の新風!～

本校の卓球部(総合運動部卓球部門)は、創設2年目という新しい部ですが、昨年本校に赴任した竹前先生によって、目覚ましい活動を行っています。その活動は校内の教育活動にとどまらず、東信地区の卓球競技スポーツ拠点事業を担い、広く東信地区全体における小中高の競技力向上に努めています。立科町の皆様にも、卓球台の提供など様々な支援を受けておりますことに感謝申し上げます。(記事は裏面)

### 困ったお話(その9) わたしのタワシさがし

立科町の自宅で食器を洗っていて、ふとタワシがないことに気がついた。流し台の中にしか存在しないタワシが、どこかへ行く場所はとても限られている。三角コーナーか排水口下の水切りの中だけだ。三角コーナーを覗いた。ない。とすれば、確実に水切りの中だ。私は自信に満ちあふれた手で、おごそかに排水口のふたを開けた。あれっ、ない。あるべきものがない。うろたえた私は困って、ほかの可能性を4つ考えた。

- ① 泥棒が入って、タワシを盗んでいった。
- ② 町役場のタワシに恋する職員が、合鍵でそっと持って行った。
- ③ 立科町の妖怪「たわし喰らい」が出て、食べられてしまった。
- ④ 私がうっかりして、無意識のうちに他の場所にタワシを置いた。



①は侵入された形跡がないし、金目のものには目もくれずタワシだけ盗るとは考えにくい。②そんな趣味の人はいないと思うし、100均で買ったタワシにハアハアするような魅力があるわけがない。③そんな妖怪は、私を含め誰も知らない。残った④が一番あやしい。

考えてみれば、過去にも実家の神棚の裏面から「きたのふじがんばれ※注」という落書きが見つかったり、メガネが庭木の枝にぶら下がっていたり、母や妻など身近な女性たちから、『おまえの無意識は恐ろしい』と叱られ続けてきた。今度はどんなすごいところから出てくるか、ドキドキしながら捜している。

※北の富士は第52代横綱 元九重親方

そしたら職員会で、「赤い羽根&生徒作アクリルタワシ」募金の話が。グッドタイミング…こっちに乗り換えよう。

追記：自我の確立期。高校生は「わたしさがし」の旅をしているころ、中年の俺はタワシさがしだった。わっかるかなあ～？

# 豪腕 28年予定長野国体

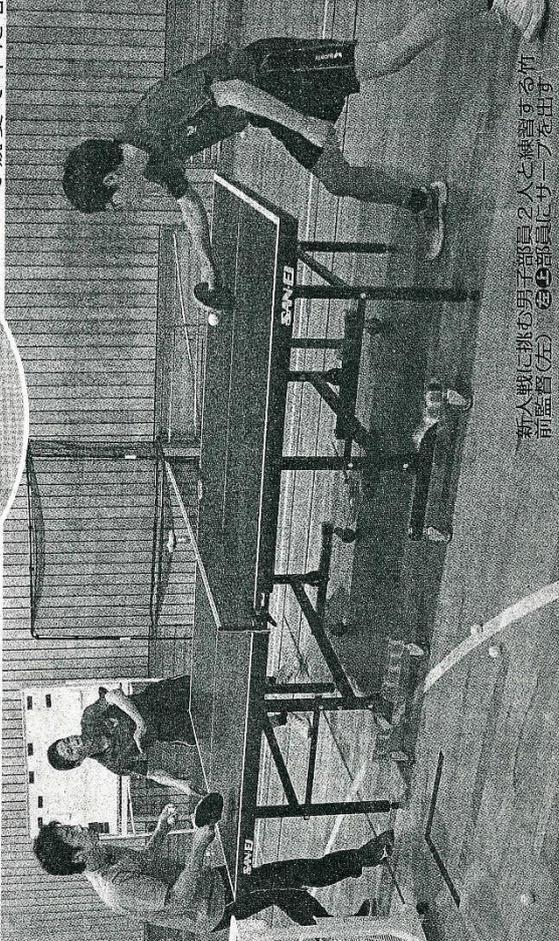
## 愛工大名電出身 竹前監督ホープ育で

藝科高が東信地区の卓球の拠点として2028年開催予定となっている長野国体に向けた強化の一翼を担っている。講師として小学2年生から中学3年生までのホープたちを指導しているのが同校の竹前監督(左)。強豪・愛工大名電に卓球留学して腕を磨いた竹前監督は競技方向上強化に力をつくりに力を尽くしている。



**部員募り創部**  
 藝科の体育館でラリーが繰り返され、男女2人ずつの卓球部だ。このところ9日、あす10日の県新人戦の男子シングルスに出場する柳沢宏(2年)と柴平旭(1年)は、許可をもらい、先月末の定期テスト前も練習を重ねた。それぞれのリクエストに応えながら卓球を出すのは竹前監督。1学年3クラスの小規模校に新風を吹き込み始めている。

須坂市出身。須坂東中卒業後は名門・愛工大名電に進学した。日体大を経て筑波大学(静岡)で監督となるも、県卓球界のため



新人戦に挑む男子部員2人と練習する竹前監督(左)。右は部員にサーブを出す

# 卓球の新風

「誰がやっても回っていくシステムをつくる」

で汗を流す強化事業が、地区の卓球選手団で隣り合ってきた。竹前監督は講師だ。少年女子で2位となっていた1979年高崎国体の夢見ているのは、東信再興。4台しかなかった

卓球台も生徒の家からも回らしたり購入するなどして4台に。「どれだけやれるのか分からないが、今回は新しい勉強。その人だけが頑張ることも願

今日からの新人戦に出場する地区の柳沢(左)と柴平



**今日から新人戦 柳沢&柴平が男子単に出場**  
 ○…新人大会は男子シングルに2選手が入部した柳沢は「ちょっとずつうまくなっている。学校が楽しくなってきた。粘ると勝負も勝ちたいです」と抱負を語る。一方の柴平はロケル大会に出場していた竹前監督に憧れて入学。「先に

塚田博文監督が一番大事にしている言葉で仕切りのフェンスにもしっかりと印字。竹前監督は部員に対して「応援される側人間になる必要がある」と日常生活から律する姿勢の大切さを説いている。

**前任教・長野工で師事 恩師・塚田監督の言葉 スロウガンに日々努力**  
 ○…藝科高卓球部が目指しているのは「応援されるチーム」だ。師と仰ぐ前任教・長野工の

ていかない。誰かやっても回っていくシステムにしたい。初任の地で新たな勉強づくりに情熱を注いでいる。(高野 浩志)

応援されるチームに!